

# みどり学級 算数科学習指導案

2023年10月25日(水) 5校時

町田市立相原小学校みどり学級

児童数 12名

指導者(T1) 鈴木創大

(T2) 満田法隆

(T3) 丁山郁子

(T4) 大森清美

## 1. 単元名

東京書籍 2上⑤100より大きい数をしらべよう・3下⑬重さをはかって表そう  
～「1円玉の枚数を調べよう」～

## 2. 単元について

### ① 単元観

本単元で扱う題材は、学習指導要領には以下のように位置づけられている。

#### 第2学年 A 数と計算

(1) 数の構成と表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身につけることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 同じ大きさの集まりにまとめて数えたり、分類して数えたりしていること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や数え方を考え、日常生活に生かすこと。

#### 第3学年 C 測定

(1) 量の単位と測定にかかわる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

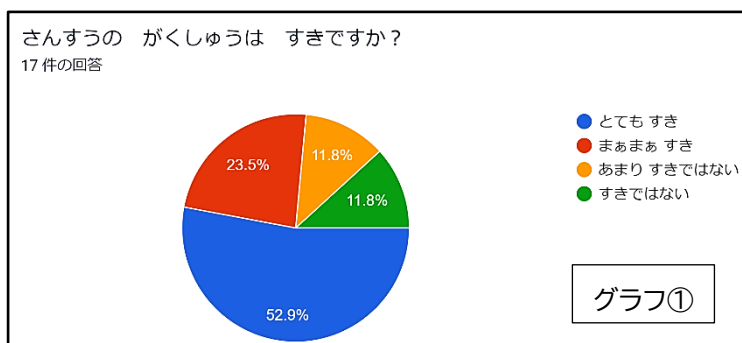
イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 身の回りのものの特徴に着目し、単位の関係を統合的に考察すること。

本単元では、「100より大きい数をしらべよう」の学習をもとに、2や5や10などの数のまとまりに着目し、3位数の大きさの比べ方や数え方を考え、さらには重さを用いた測定方法にまで発展して考えることを主なねらいとしている。

### ② 児童観

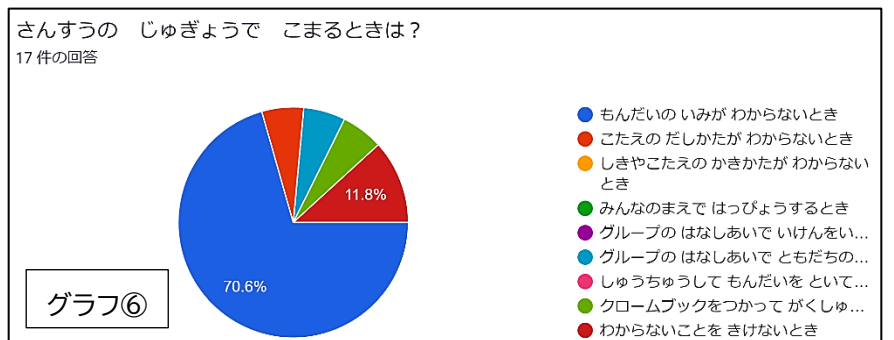
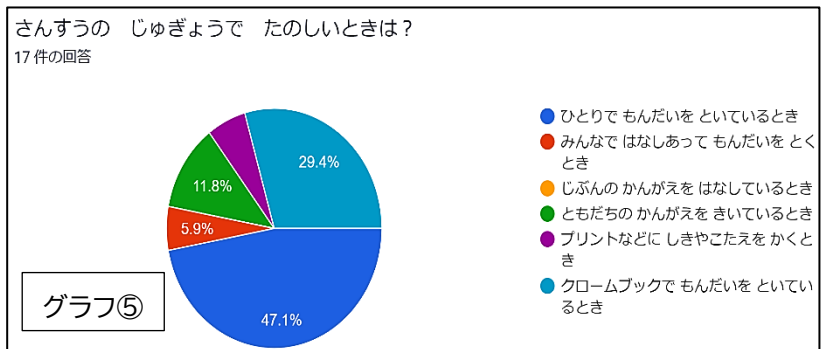
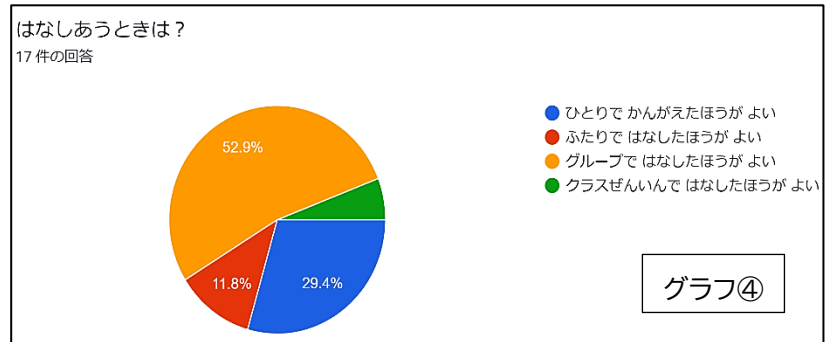
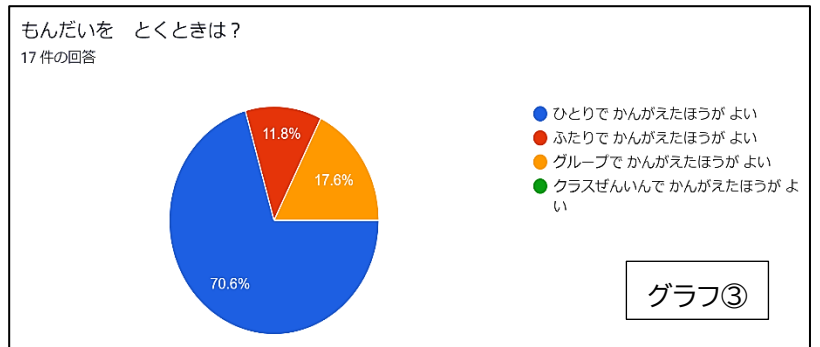
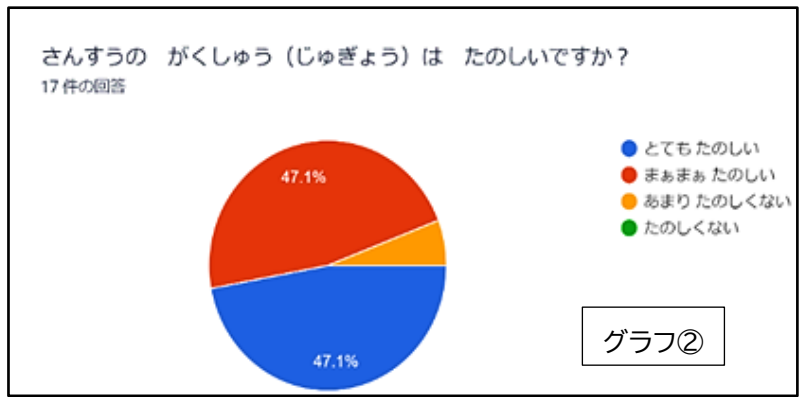
9月上旬にみどり学級で実施したアンケートでは、算数の授業に肯定的な回答(とても好き、まあまあ好き)をした児童が多く、否定的な回答(あまり好きではない、好きではない)をした児童は24%(4名)であった。(グラフ①)



また、算数の授業の印象はほとんどの児童が肯定的な回答であり、楽しくないと否定的な回答をしたのは 5.8% (1名) であるため、算数の授業の印象が悪いわけではなさそうである。(グラフ②)

授業中に「問題を解くときには」という問いでは、ほとんどの児童が「一人で考えたほうがよい」を選んでいてクラス全員で考えたほうがよいを選んだ児童が一人もいなかったことを考えると、本学級には、まずは課題に一人でじっくりと取り組ませる授業展開が望ましいことが分かる。(グラフ3)しかし、「話し合うときには」という問いには、一人やペア、クラス全体で話し合うのではなく、小グループで話し合った方がよいを選んでいる。本学級は、一学期から特別活動班を作り、話し合い活動をしてきた。その効果もあってなのか、一人で考えはしたいが、話し合いはまずは小グループでしたいと思っていることが分かる。(グラフ4)

「算数の授業で楽しいときは」という問いには、「一人で問題を解いているとき」や「クロームブック(ほとんどがキュービナ)で問題を解いているとき」を選んでいる。その反面、「友達の考えを聞いているとき」や「みんなで話し合って問題を解くとき」を選ぶ児童が約 17%(2名)と極端に少ない。ここからも、学習には個人で取り組むことを好んでいることが分かる。(グラフ5)「算数の授業で困るときは」という質問には、約 70% (8名)の児童が「問題の意味が分からないとき」を選んでいる。導入の段階でいかにして学習問題を児童に分かりやすく提示することができるかが重要だということが分かった。



### ③ 指導観

児童は、これまでに 100 までの数について、10 まで、40 まで、100 までと少しずつ数範囲を拡張しながら、その読み方、書き方、及び数の系列、順序、大小について学習してきた。また、簡単な 3 位数について、おもに数えたり、数を唱えたりすることを中心に指導がなされてきている。単元全体を通して、10 や 100 などの数のまとまりに着目し、3 位数の

大きさの比べ方を考え、その意味の表し方を理解し、十進位取り記数法の理解を深めてきた。10 や 100 のまとまりをつくっていくことは数の意味やあらわしかたに直結するからである。

また、重さの単位や測定方法について、単位量の何個分かで考え、重さを数値化して表せることを学習してきた。ここでは、1 円玉の総数を数える活動で、1 円玉の重さからその総数の見当をつけることを考えさせたい。

#### ④ 研究との関連

本校の研究主題は「自ら考え 解決に向けて関わりあえる児童の育成」である。本学級の児童は、できるようになると集中して課題に取り組むことができるが、分からないことがあるとすぐに諦めてしまったり、粘り強く取り組めなかったりする傾向にある。また、分からない問題に直面してもどこが分からないのかを伝えることが難しい児童が多い。また、アンケートから、一人で取り組むことを好む児童が多いことから、この研究を通して、友達とかかわりながら課題に取り組む活動を行い、新しい発見をしたり、よりよい方法を見つけたりできる児童に育てていきたい。

### ①課題提示の工夫

・興味・関心をひく課題設定と分かりやすい提示の仕方を工夫する。

### ②学びの時間の工夫

・教材や発問、考えの共有の仕方を工夫し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。

### ③ICT活用の工夫

・ICTを活用して、視覚的に全体の考えを共有できるような授業展開を工夫する。

- ① 児童がやってみたいと思える課題の設定と、自分事としてとらえられる分かりやすい課題の提示をする。
- ② 指導者が授業環境を整え、児童に個別最適な学びと協働的な学びが一体となる工夫をしていく。本時の学習では、個別最適な学びと協働的な学びが一体的に取り入れられる学習であるため、児童が課題を確実にとらえ、他者と交流して考えを広げたり、深めたりする活動をさせる。
- ③ ノートに書くことが難しい、パソコンに直接入力することも難しい児童が多いため、実際に物を操作して考えられるようにして、答えを導かせる。そして、自分のグループの考えを他のグループと共有するときには ICT を活用し、児童が比較しやすいように全体が見える協働的な学びができるような工夫をする。

## 3. 単元の目標

時間的な早さ、重さに着目して数を調べた過程や結果を振り返り、数理的な処理の良さに気付き、日常生活に活用することができる。

## 4. 単元の評価規準

項目	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
単元の評価規準	重さの単位(g)を用いて、1 円玉の枚数を表すことができる。	はかりを使って、数えられるものを探し、それを表現している。	自分で 1 円玉を数える方法を選び、工夫してそれを数えようとしている。

## 5. 本時の指導案は別紙に

### 【成果】

- ・生活に即した題材だったので、児童が最後まで意欲的に取り組むことができた。
- ・児童の発言で授業を進めていったので、個別最適な授業ができた。

### 【課題】

- ・個別最適な学びと協働的な学びに充てる時間配分のメリハリ
- ・自分の興味・関心で調べたい方法を選ぶのではなく、友人関係で選んでいる児童がいたので、全員が個別最適な学びにならなかった。